

## 第4回 加西市公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会 会議録

日 時 令和4年12月2日（金）9時00分～12時00分

場 所 北部公民館 視聴覚室

委 員	委 員 長	松岡 広路
	副委員長	谷勝 公代
	委 員	岡本 教穂
	委 員	藤本 文俊
	委 員	櫻井 臣義
	委 員	岩佐 文雄
	委 員	国田 徹也
	委 員	植田 美紀子
	委 員	菅野 将志
	委 員	達可 有呉
	委 員	泉 育代
	委 員	藤田 亮
	委 員	大藤 由美

1名欠席

職 員	教育長	民輪 恵
	生涯学習課課長補佐	高見 和哉
	生涯学習課	近藤 優佳
	教育部長 欠席	
	生涯学習課長 欠席	

### 1. 開会

### 2. あいさつ

（教育長）

本日は、朝早くからお集まりいただき、ありがとうございます。

10月から11月にかけて、公民館まつりに出席させていただきました。そこで、子どもたちが運営側として参加してくれている姿を見て、お年寄りも何となくいきいきしていますし、大変いいことだなと感じました。やはり、公民館は地域の文化と交流の核ですので、何とか活性化させて、良くしていきたいなと改めて思いました。

また、加西市は中学校を統合しますし、未来型児童館の新設も計画していますので、その

利活用も含めて機能を考えた方がより良いものになるのではないかと思います。そういうことも含めて、このあり方検討委員会で方向性を決めていただければ、それに基づいてきちんと現実化していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3. イントロ

(委員長)

皆さん、本日は寒い中お集まりいただき、ありがとうございます。

今日は、何を提言するかについて、より具体的に皆さんにアイデアを出していただく時間になります。前回の会議でも、ある程度は提言を出していただいたのですが、それをもう少し具体性のあるものにしていきたいと思えます。

よろしくお願ひします。

～ふりかえりシートのフィードバック～

### 4. グループワーク

～テーマ「短期・中期・長期の戦略を、もっと具体的に！」について意見を出し合い、その後、各グループ3分程度で発表～

(第2グループ)

○発表内容

#### 【企業の活用】

- ・現状の公民館は、余裕がなく、日々の業務をすることに追われてしまっている現状がある。
- ・人材不足の課題に対して、企業を活用したり商工会議所と連携したりするのはどうか。

#### 【公民館コーディネーターや専門家の任用】

- ・公民館間の連絡・調整をうまくできるようにする必要がある。
- ・公民館コーディネーターを生涯学習課へ置いて、共通理解を図ることができれば、充実した公民館運営に直結するのではないか。

- ・ICTを活用できる専門家がいれば、スムーズに業務を進められるのではないか。

#### 【ふるさと納税の活用】

- ・予算確保の課題に対して、ふるさと納税を活用するのはどうか。公民館活性化を使用目的としてふるさと納税を行ってもらえたら、お金も使いやすくなるのではないか。

### 【SNS・健幸ポイントの活用】

- ・加西市の公式 LINE アカウントからチラシ等を配信することで、若い世代やより多くの人に PR することができるのではないか。
- ・健幸ポイントを活用して、公民館に来たらポイントがもらえるようにするのはどうか。

### 【公共交通機関の活用】

- ・学生のコミュニティバス利用を無料にすることで学生が来てくれるのではないか。
- ・また、バス停が少ないので、バス停を増やすことが必要だと感じる。

### 【公会堂の利用者数】

- ・出前講座などで公会堂を使用している分も、公民館の利用者数にカウントするような仕組みにする。そうすると、予算要求するときの実績として提示することができるのではないか。

### 【相談窓口の設置】

- ・困りごとや悩みごとの相談先一覧表のようなものを公民館で持っておいて、何か困ったことがあれば、公民館へ行くことができる環境を作る。

### ○補足、質疑応答

(委員 J)

やはり、予算が一番だと思っています。公民館の職員だけではなく、教育委員会の中で生涯学習を担当する人が増えてくれれば、もっと公民館の方にも目が行くのではないかと思います。

また、研修なども行っていただいて、プロフェッショナルな公民館職員を育てていただきたいです。もちろん、プロフェッショナルになろうという気持ちのある人に来ていただかないといけません。

(委員長)

1人1人の公民館職員の給与を上げるのではなくて、目に見える形で人の数を増やすということですね。

講座の企画や職員の研修までできる優秀な人に来てもらおうと思うと、それなりの年収を用意しないといけません。その財源をどこから取ってくるのかについては、ふるさと納税を活用したらいいのではないかという意見がありました。

例えばですが、ある年収の枠の中でワークシェアリングをしていただくことも、ひとつの方法として考えられます。ワークシェアリング方式の場合、人件費をどう分割するかは、その時々によって柔軟に対応することができます。公民館コーディネーター1人分の予算を純増させるのではなく、ある程度の予算を増やしてもらって、それをこちら側で柔軟に変える

ことができると、公民館長も頑張って活動しようという気持ちになりますよね。

人材育成というところについて、社会教育主事という資格がありますが、この資格を取得するためには、1人30万円ほどの費用がかかります。近年、社会教育士という資格ができました。これも取得するための費用はかかるのですが、比較的手軽に社会教育職員を養成したいというニーズに応えたものになります。公民館職員を育てていくのであれば、こういった資格の取得も戦略としていえるのではないかと思います。

### (第3グループ)

#### ○発表内容

##### 【フリースペースの設置】

・自動販売機やコーヒーマシン、Wi-Fi環境があり、くつろげるフリースペースを作ることが重要なのではないか。夕方になるとアステリア3階に学生が集まっているような雰囲気イメージしているが、公民館でこれをすると高齢者ばかり集まってしまうのではないかという心配があるため、対象者によって時間分けをするのも有効なのではないか。

・自身の体験として、神戸の青少年会館に行った際、青少年育成している場所でありながら、公的に貸し出しされてテレビゲーム(eスポーツ)をしているところを見かけた。今の時代やニーズに合ったことをしているなど感じた。

##### 【バリアフリー化】

・バリアフリー化というと長期ビジョンになってしまいがちだが、できることからしていくことが大切なのではないか。例えば、階段の左右に手すりを付けたり、段差にスロープを付けたりするなど。

・長期的な取り組みとして考えられる、エレベーターの設置や駐車場の整備などは、統廃合される中学校の利活用で補っていく方法もあるのではないか。

##### 【コミュニティバスの活用】

・行きやすい場所にするためにコミュニティバスを充実させる。また、公共交通手段として、それぞれの公民館を繋ぐ。

##### 【定期的なイベントの開催】

・集える場所ということで、定期的に朝市やバザーなどのイベントを開催する。そこに集まってくれた方に公民館活動のPRをしていく。

##### 【運営委員会を組織】

・公民館を良くしたいという人たちが集まって公民館運営委員会を組織し、講座やイベント

を企画・運営していくことも有効ではないか。

・ただ、それがボランティアの場合、どうしても継続しない部分があるので、中間支援組織的な NPO や非営利型一般社団法人などの組織づくり、また、組織づくりに携わりたいという市民育成を目指していかないといけない。

○補足、質疑応答

(委員長)

このグループは、面白そうなアイデアを前に出して、それを誰がどうやって作り上げていくのかというところに、みんなの意識が向くようなプレゼンをしてくださいました。フリースペースを作るという案も、どうやってそのスペースを作って、どうやって維持していくのかまで問いかけているような発表だなと思いました。

一般社団法人のような社会的公共性のある組織が人を育てていくような役割を持ってもいいのではないかという話がありましたね。業務の一部を外部に発注するアウトソーシングのような発想ではなくて、人を作っていくような NPO に注目して、そこと公民館の運営が連携していくと、質の高いボランティアが生まれたり、もっと言うと、職員を育成していく場になったりするかもしれないということですね。職員づくりを目指す NPO があってもいいのではないかということが、僕はすごくヒントになったような気がしました。

(委員 H)

加西市は、いろいろな市民団体があるのですが、法人格を持っておらず、ボランティア意識の強い任意団体が多いように思います。それはそれですごく良いことなのですが、今回のような場合、継続性や最先端性に特化した団体が必要なのかなと思いました。

(教育長)

委員 J たちに立ち上げていただいた「生涯学習支援ネットかさい」という団体は、任意で活動している民間のグループを公に支援して、活動をしやすくするために、生涯学習相談業務をしてくださいます。来年 1 月から始めていただくと聞いています。やはり、団体活動をしていくためには、ある程度の専門性やノウハウが必要になりますので、そういうことのアドバイスをしながら民間のグループや人材を育てていきたいと思います。

(委員長)

現場がないところで何となく専門性を身に着けることはすごく難しいです。そこで、生涯学習支援ネットかさいは、専門性を作り上げていくためのプログラムのようなものを提供されるのですね。中間支援組織として支援していくことによって、長い目で見た時、10 年くらい先の加西の社会教育を活性化させる人材育成になりますね。こういったことも提言に入れ

ていきたいですね。

(第1グループ)

○発表内容

**【地域の居場所としての場作り】**

- ・現実を並べていくとあれがない、これがないとなってしまうので、目的を再確認した。
- ・目標としては、やはり地域の居場所、サードプレイスとして、公民館を作っていくこと。そうなると、公民館という建物の枠の中で考えるのではなく、地域に出ていく「場」をつくれるものであるべき。サテライトやVR公民館など、バーチャル空間でも場作りができればいい。
- ・また、そういった場を作ることができれば、何らかの形で地域の情報発信もできるのではないか。

**【自習室の設置】**

- ・公民館について、広く周知されておらず、特定の世代の利用が多い（公民館マニアの人たちが集まっていて、そこで壁ができてしまっている）現状を考えて、自習室を作って活用することができれば、学生も来ることができるのではないか。
- ・北部公民館は、コンビニが近くあるので、コンビニでご飯を買って1日過ごすこともできる。そういった形で、公民館が学生の生活の中に当たり前のように入ることができれば、それが循環して、結果的に人材育成にも繋がるのではないか。

**【プロジェクトチームを組む】**

- ・地域の居場所という考えでいくのであれば、公民館だけで考えるのではなくて、まちづくりと生涯学習を計画的に考えていかないといけない。
- ・まちづくりとして、どういう市民を育成していくのかを、プロジェクトチームのような形で話すことも必要なのではないか。

○補足、質疑応答

(委員長)

僕が気になったのは、まちづくりと生涯学習を計画的にするには、プロジェクトチームのようなものを作ることが必要だという話です。

前のグループも、企画を実際に進めていく時や公民館のデザインを作り上げていく時にはチームが必要で、組織化されるといいという話がありました。正規職員、非常勤職員、嘱託職員、この人たちの力を合わせて作ってもらうにはどうしたらいいかという話もありました。

チーム、或いは小さなコミュニティを、どの範囲で作っていくのかもひとつのポイントですよ。

先程の発表からは、役場内連携的なチームをイメージしたのですが、それで合っていますか。

(委員 K)

話し合った時点では、そのようなイメージでした。もちろん、公民館活動を実際に行っている人も必要だと思います。

(委員長)

あらゆる立場の人たちが集まってチームを作ると、合意形成が難しくなります。この合意形成をどうするかは我々の永遠の課題で、この課題から逃げてしまうと、生まれてくるものは、声の大きい、もしくは力が強い人だけの意見になってしまいます。そうならないようにするための工夫が、公民館運営の時は特に必要です。一方で、民主主義と言われる何でも合議で進めていくというスタイル、これは本当に有効で正しいのかという議論も最近では生まれ始めています。

正しさは誰もわからないところがありますし、立場によって言いたいことも違ってきます。そこを合意に持つていくための方法論を考えるのが社会教育職員で、社会教育職員が一番苦しいのはそこなのです。それをわかってあげられる館長や行政職員がいないと、もうこんな仕事したくないとなってしまいますので、そうならないように、このプロジェクトチームの運営をどう進めていくのか、これも大事なポイントではありますね。

## 5. 個人ワーク

～テーマ「なにを提言するか？私の4つの提案」について、個人で作業後、ひとりひとつ発表～

(生涯学習課長補佐)

利用者から運営側に、さらに世代を超えて循環していく公民館です。

(委員 D)

場づくりということで、自習室と遊具室を設置することです。学生や子育て世代の利用を促進し、公民館を身近に感じてもらうことが大切だと思います。

(委員 K)

一般的に社会教育の視点を持たれていない方が多いので、生涯学習課に限定することなく、市職員の中で毎年1名、社会教育主事の資格を取得させることです。

(委員 A)

大きな施設などは希望できないので、社会教育主事など公正な判断をしながら情報発信ができる人材、また、そういう場所を設けることです。

(委員長)

情報発信ができたり IT を使ったり専門性を持っている人たちがいて、尚且つ、それを活かせる場がほしいということですね。

(委員 C)

企業など様々な方面から協力を得て、型にはまらない公民館を作ることです。ふるさと納税を当てにするのではなくて、地域の方々と協力することが大切だと思います。

(委員 B)

公民館でどういうことが行われているかを知らない方が多いので、公民館について広報活動をしていくことです。今までも広報活動をしていると思いますが、他にも何か方法がないのかなというところです。

(委員長)

これを少し深掘りすると、情報を垂れ流しにしてもいけませんよね。あなたに来てほしいという熱意を込めた伝え方にすることが必要です。

(生涯学習課職員)

フリースペースを設置することです。机と椅子を置いて自由に作業ができるような場所を作ることで、普段来る機会がない学生なども公民館を訪れるきっかけになるのではないかと思います。

(委員 G)

公民館を利用していただくためには、定期的なイベントが必要だと思います。1か月に1回や2か月に1回でもいいので、野菜市や子育て世代の不用品を交換するような場を設けることが出来たらいいのではないかと思います。

(委員長)

面白い講座が出来た時には、「いいね」と言ってほしいですね。それでないと、今おっしゃった野菜市などを実験的にできないですから、そのあたりを認めてくれる運営側でいないといけませんね。

(委員 H)

誰も書かなさそうなことですが、VR 公民館です。



(委員長)

バーチャル公民館と実際のもので繋がっていくイメージが、正直、僕はまだできていないのですが、それを面白く感じる人が多くいて、将来的にそうなるのだろうなと思います。

(委員 L)

共生・協働という視点から、社会資源の活用として、企業や自治組織、団体、地域住民を味方につけ、協力してもらうことです。

(委員長)

サードスペースとして繋がる場が乏しくなると、公民館が大切な繋がり場になります。その時、地域住民や企業を繋げながら、公民館が活性化するということですね。

(委員 I)

引きこもりや不登校の対策です。学校ではできないことも、公民館にはその余地があるのではないかと思います。

(委員長)

この問題と公民館を繋げていくためには、もう少し具体的なことが必要になってきますが、公民館で解決できる課題として、踏み込むことが大切だということですね。

公民館はもともと、住民の自治で運営されており、そこを行政職員がフォローをするという、半官半民のものでした。住民の自治が生まれてくれる中でやっている公民館は、雰囲気も振る舞いも、学校など他の公共施設とは少し違うのです。その中で、不登校になっている子がもう一度自分に自信を取り戻してくれる、そういう場になってくれたらいいなということですね。

(委員 E)

幅広く人が集う公民館ということですが、公民館の担う役割としてどこまでしなくてはいけないのか。理想はいろいろあるのだけれど、公民館がすべてのものを取り込むのかというと、そうではないと思います。

(委員長)

冒頭で幅広い人が集うとおっしゃったことには、深い意味があるように思います。公民館は、一体どういうタイプの集いの場で、どういう機能を持っている場なのか、そういったことを幅広い人が来てくれている中で常に考えていかなければならないですね。

(委員 J)

人への予算の確保です。先ほどもお話をさせていただきましたが、やはり、人材を育てるこ

とが一番大切だと思います。

(委員長)

お金がないので、節約するのではなくて、稼ぐという発想ですね。質は下げない、その発想でいきたいです。

職員が活動するための情熱はどこから生まれるのでしょうか。お金というよりは、利用者と一緒に働く人ではないでしょうか。だから、エネルギーをくれるような人と繋がっていかないといけないですし、情熱が続くような職場環境を作っていくといけないですね。

(委員 F)

公民館を利用されていない方に、面白いなと興味を持ってもらい、呼び込むために、こちらから出向くなどの工夫が必要だと思います。

(委員長)

今まで利用した経験がない人に来てもらうためには、先程、委員 B がおっしゃったように公民館の広報活動をするということ、それに加えて、VR 公民館や朝市などいろいろな企画を柔軟に出すことができないと、継続的に来てもらえないです。また、何かメリットも作らないと新しい人に来てもらうことは難しいです。

それらをコーディネートするのが公民館長であれば、公民館長には相当な専門性や柔軟性が求められます。そんな公民館長のポジションを、お金の話をしなくても、ワクワクしてそのポジションに就きたいと思ってもらえるようにしていきたいですね。

## 6. 総合討議

(委員長)

今日は、前回よりも具体的で面白い意見がたくさん出てきて、大変嬉しく思っています。

～次回の予告について説明～

委員長、副委員長、事務局で報告書の草案を作成し、それに対して委員の方からご意見をいただく。

～報告書の枠組み（案）について説明～

「タイトル」

はじめに

1 章 社会教育施設の現状と課題（4つの公民館ごとに）

2 章 未来に残したい社会教育施設の姿

### 3章 短期的、中期的、長期的な提言

### 4章 加西市行政への期待

#### おわりに

報告書は、2月には完成させたいと思っています。その後は、事務局と相談しながら動くこととなりますが、僕としては、プレスリリースくらいするつもりで、住民の方にしっかり知っていただきたいと思っています。広く訴えかけて市長が聞かざるを得ないような状況を作るのもひとつの戦略だと思っています。

加西市教育委員会と神戸大学とで連携協定を結んで、何かするというようなことも提言のひとつとして入れられるのではないかと思います。

また、先程、お話があった生涯学習相談事業のような、事例も多く入れたいと思っていますので、そのあたりは年明けの会議において、皆さんにご協力をいただきたいと思っています。

このような方向でまとめていきたいと思っていますので、引き続きよろしく願いいたします。

#### 7. ふりかえり

～ふりかえりシートを記入～

#### 8. 閉会